

# 島根原子力発電所の運転状況（平成20年9月）

## I. 1号機

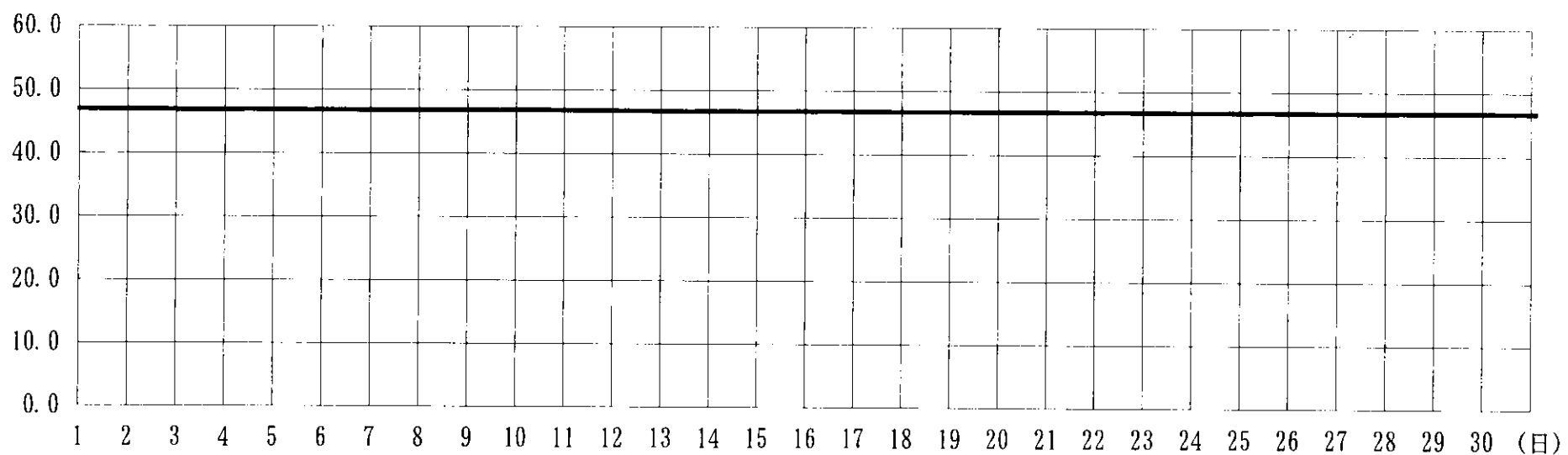
### 1. 運転状況

発電時間 720 h      発電電力量 33,640.6万 kWh      設備利用率 101.6%

### 2. 主要項目

なし

(万 kW)



### 3. 特記事項

なし

## II. 2号機

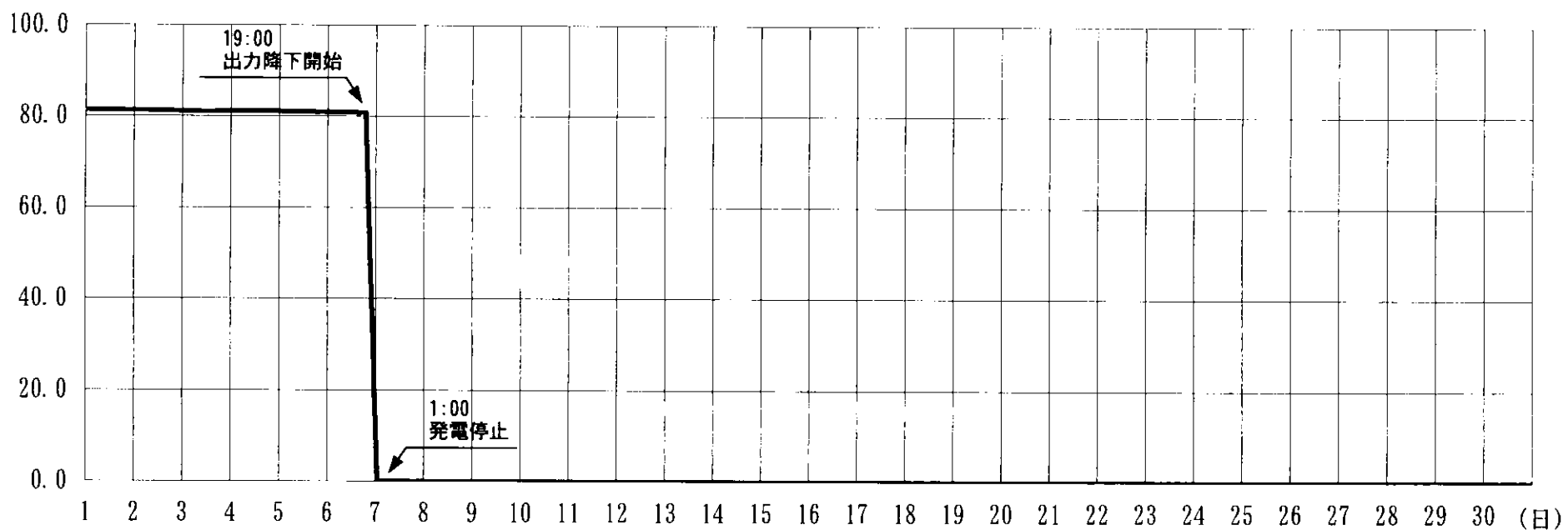
### 1. 運転状況

発電時間 145 h      発電電力量 11,443.1万 kWh      設備利用率 19.4%

### 2. 主要項目

①第15回定期検査のため発電停止（H20.9.7 1:00）

(万 kW)



### 3. 特記事項

別紙参照

## III. その他

なし

【特記事項（2号機）】

(1) 9月7日（日）、第15回定期検査開始に伴う原子炉停止操作中の3時46分に、中間領域検出器チャンネル15の指示が瞬間的に上昇し、「B-自動スクラム」の警報が発報した。

なお、他の中性子検出器に変化はなかった。

原因は調査中。

(2) 原子炉停止後の原子炉冷却操作中のところ、9月7日（日）17時45分頃から「D-主蒸気管モニタ」（低）の警報が頻繁に発生したため、17時58分に原子炉施設保安規定に定める運転上の制限を満足しない状態であると判断した。

その後、19時07分に原子炉が冷温停止状態となり、その結果、原子炉施設保安規定に定める運転上の制限を満足しない状態から復帰した。

原因は調査中。

(3) 9月25日（木）10時20分頃、原子炉建物地下2階にある圧力抑制室下部の床面に溜まり水があることを確認した。

水の漏えい箇所を調査したところ、定期検査において開放点検を行っている残留熱除去系の弁から漏えいしたことを確認したため（発見した時点では漏えいは止まっていた）、直ちに当該弁の上流側に設置している隔離弁を閉止した。

漏えいが発生した原因は、当該系統の洗浄用水受けタンクのポンプが自動起動した際に、当該弁の上流側に設置している弁（通常、閉止状態で管理）を別の点検作業に伴い開状態にしていたため、タンク内の水が配管を通して当該弁に流れ込み漏えいしたものであった。

なお、漏えい水の量は約660リットル（放射エネルギー：約81万ベクレル）で、紙ウエスにより拭き取り回収した。

(4) 9月17日（水）から原子炉圧力容器内構造物等の点検作業を行っていたところ、炉心シュラウド外側のジェットポンプ付近のプレート上でピン状の異物（長さ約50ミリメートル、直径約6ミリメートル）、帯状の異物（長さ約40ミリメートル）およびテープ片状の異物（長さ約20ミリメートル）を発見し、9月20日（土）までに回収した。

回収した異物を調査したところ、ピン状の異物（金属製、ピン本体に割りピン1本が装着されたもの）については、建設中（昭和63年）の試運転時に発生した原子炉給水外側隔離逆止弁の開閉表示装置の破損部品の一部と推定した。

今後、未発見の部品（ワッシャー2枚、割ピン1個）が原子炉の運転に与える影響について、評価を行う。

また、帯状の異物（プラスチック質）およびテープ片状の異物（紙質）については、定期検査中の作業において使用した作業用消耗品の破片であるものと推定した。

以上